

「アートでケア基金」スタート記念 第1回サロンのご案内

「アート×福祉・医療 ケアの現場にアートで潤いを」
～たんぽぽの家 播磨靖夫さんを迎えて～

公益財団法人パブリックリソース財団では、アート作品やアート活動を福祉施設や病院に贈り、潤いあるケアの空間を創ることを目的とした「アートでケア基金」* の運営を開始します。

基金スタートにあたり、エイブルアート（可能性の芸術）という概念を日本で初めて提唱した、たんぽぽの家の播磨靖夫さんをお迎えし、人間が人間を支える「ケアの時代」のアートの可能性について、お話しをうかがいます。

医療や福祉、教育、コミュニティなど人間の生命（いのち）を支え、育む場の質を高めることに関心をもつ皆様と、語らいの時間を共有したいと思います。播磨さんのお話しのあと、軽食をとりながら、自由に懇談するサロンです。どうぞ、お越してください。

* 「アートでケア基金」とは
アート作品やアート活動を福祉施設や病院、学校等に贈り、潤いあるケアの空間を創ることを目的として、当財団が運営を開始するものです。

<キーノートスピーチ> 播磨靖夫さん

「ケアの時代とアートの役割（仮題）」



※播磨靖夫さんのプロフィール

財団法人たんぽぽの家理事長、日本ボランティア学会副代表
新聞記者を経てフリージャーナリストに。障害のある人たちの生きる場としての「たんぽぽの家」づくりと、自己表現していくことのできる社会づくりを市民運動として展開。現在、財団法人たんぽぽの家理事長のほか、社会福祉法人わたぼうしの会理事長、エイブル・アート・ジャパン常務理事、日本ボランティア学会副代表、アートミーツケア学会常務理事などを務める。主著に『知縁社会のネットワークキング』など。

「アート×福祉・医療 ケアの現場にアートで潤いを」 ～たんぽぽの家 播磨靖夫さんを迎えて～

病気の人を治し癒す病院、人生の最後の時を迎える高齢者を支える福祉施設、子どもの成長を育む学校などの場は、本来は人間の生きることの全体性を支えることが求められます。しかし、治療や介護、教育を優先させるので、人間らしい豊かな空間や時間をつくるのが難しい現実があります。

このようななか、病院や福祉施設などで人間が生きることを助けるアート活動がはじまりつつあります。医療や福祉、教育の場にある切実なニーズに向き合い、人間を幸福にするアート活動を広げるためには、支援の仕組みが必要です。行政や企業による支援だけではなく、アートを個人が支えるための寄付の仕組みが求められています。

【日時】 2013年7月19日（金） 19時～21時 **※受付は18時30分から**

【会場】 株式会社内田洋行 新川本社（ユビキタス協創広場CANVAS）
東京都中央区新川2-4-7（東京メトロ 日比谷線「八丁堀駅」下車、「A4」出口より徒歩4分）
<http://www.uchida.co.jp/company/showroom/canvas.html>

【プログラム】 **※軽食とお飲み物をご用意いたします。**

- 19:00 ごあいさつ～アートでケア基金のご紹介を兼ねて～
- 19:15 <キーノートスピーチ> 播磨靖夫さん
「ケアの時代とアートの役割（仮題）」
- 20:00 <懇談> 播磨さんを囲んで自由に懇談
- 21:00 サロン閉会

【協力】 株式会社内田洋行（予定） **【定員】** 30名 **【参加費】** 5,000円

【お申込】 「お名前、ご連絡先（メールまたはご住所・電話）」を、メールまたはFAXにて、7月17日（水）までに、財団あてお知らせください。※参加証は特に発行しません。

【問い合わせ・お申込先】

公益財団法人パブリックリソース財団
〒104-0043 中央区湊2-16-25 202
電話：03-5540-6256 Fax：03-5540-1030 E-mail：center@public.or.jp

サロン参加申込書

公益財団法人パブリックリソース財団 宛

(Fax：03-5540-1030 E-mail：center@public.or.jp)

7月19日のサロンに参加を申し込みます。

お名前	
メールアドレス	
ご住所	〒